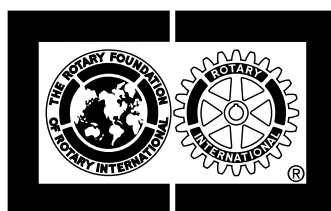


ロータリアンのための奨学金の手引き

国際親善奨学金



www.rotary.org

「ロータリアンのための奨学金の手引き」は、ロータリー財団の国際親善奨学金プログラムに携わるロータリアンのための参考資料です。この手引きには、ロータリー財団国際親善奨学生の派遣や受入れを成功させるために、クラブや地区が必要とするあらゆる情報が掲載されています。ここに概説されているように、地区奨学金小委員会委員長は、このプログラムに全般的に携わることとなります。ロータリー財団の教育的プログラムを通じて親善使節を育成するにあたり、この資料を頻繁に参考にしていただけることを願っております。また、この資料の出版後に加えられる最新の変更については、国際ロータリーのウェブサイト (www.rotary.org) をご参照ください。

目次

国際親善奨学金

はじめに	1
推進と選考	4
資金調達と奨学金の金額	4
資料の配布および推進	5
寄贈奨学金、冠名奨学金、奨学金基金	6
選考手続	8
管理委員会の承認と留学機関の指定	10
補欠候補者	11
オリエンテーション	12
オリエンテーションの目的	12
派遣側カウンセラー	13
オリエンテーション・セミナーの立案と実施	13
参考資料	16
奨学生の受入れ	17
受入側カウンセラー	17
来訪奨学生のためのオリエンテーション	17
学友への推進	18
補遺 A 候補者に尋ねる質問	20
補遺 B 国際親善奨学金の面接評価の見本	21
補遺 C 候補者面接後の委員会のための指針	22
補遺 D 語学力の必要条件	23
補遺 E 国際親善奨学金の理想的候補者の特徴	24
補遺 F 国際親善奨学生に推奨される留学地域	25

国際親善奨学金の目的

国際親善奨学金プログラムは、世界理解と平和を促進するというロータリー財団の究極の目標を、次の方法で支えています。

- 国際親善使節を外国に留学させることにより、文化の相違に対する意識と尊重の念を深める
- ロータリーの奉仕プロジェクトへの積極的参加により、ロータリーの理想である「超我の奉仕」を奨学生に浸透させる
- 奨学生が各自の地域社会や国の人々の生活の質を向上させるために、個人生活と職業生活を捧げるよう奨励する
- 世界地域社会の人道的ニーズに取り組むことのできるリーダーを育成する
- 奨学生を地理的に均等に送り込むことにより、世界の全地域に影響を与える
- 低所得国からの奨学生のために教育の機会を増やすよう、世界中のロータリアンを奨励する
- ロータリーと奨学生の間に関係にわたる絆を培う

はじめに

国際親善奨学金は、ロータリー財団の最も古くよく知られているプログラムで、その素晴らしい伝統は1947年にまでさかのぼります。世界中のロータリアンからの寄付によって、このプログラムは多大な成功を収めてきました。これらの惜しみない寄付は、今日の奨学生への投資と言えます。これは、将来性のある学生が明日のリーダーとなり、各自の地域社会のみならず世界に大いに貢献するであろうというロータリーの信念の表れなのです。

ロータリー財団の管理委員会は、前のページに挙げられているように、国際親善奨学金プログラムの7つの目的を定めました。これらの目的は、国際親善奨学金プログラムがいかにして財団の使命を効果的に推し進めるかについて、国際親善奨学生とその派遣側・受入側ロータリアンに幅広い理解を与えるものとして認められました。

国際親善奨学金プログラムは、以下の4つの基本要素を十分に行って始めて、その目的を効果的に助長することができます。国際親善奨学金を支援するロータリアンは、各奨学生に対する自分の投資が、慎重な選考過程、徹底的なオリエンテーション、熱心な受入れ態勢、学友への推進を通じて生かされなければならないことを認識しています。ロータリアンの参加がなければ、奨学金プログラムは、ただ単に学生に資金援助を与えるだけのものになってしまいます。ロータリアンからの助言と指導があつてこそ、当プログラムは、教養、思いやりの心、理解力を備え、世界中の地域社会の人道的ニーズを解決することのできるロータリー財団国際親善奨学生を生み出すことができるのです。

1. 広報と選考

地区奨学金小委員会は、ロータリー財団の奨学金プログラム担当部の支援を得ながら、利用可能な奨学金について広報し、優秀な候補者を募り、最も資格を備えた奨学生を選出するという責務を担っています。小委員会は、

- 地区内のロータリー・クラブおよび大学に対してプログラムを推進し、募集している奨学金にそれぞれ一名の候補者を推薦するようすべてのクラブに奨励します。クラブは、奨学生とロータリーとの橋渡し役を務める派遣側カウンセラーを、各候補者のために任命しなければなりません。
- 適任の委員をそろえた強力な選考委員会を組織します。時間が許せば、地区ガバナーと地区ガバナー・エレクトが選考過程に参加するようにしてください。学友（元奨学生）も参加することができます。
- 本プログラムの目的を支えるため、ロータリーの理想に最もふさわしい奨学生を選出します。補遺Eには、理想的な候補者の特徴が紹介されています。さらに、管理委員会は、明らかに**人道的な分野に影響**を与えるような研究分野を専攻する奨学生を選出するよう奨励しています。

以下はその一例です。

- 平和と紛争予防／紛争解決
- 疾病予防と治療
- 水と衛生設備
- 母子の健康
- 基本的教育と識字率向上
- 経済と地域社会の発展

2. オリエンテーション

地区でプログラムを成功させるための2番目の基本要素は、奨学生のオリエンテーションです。オリエンテーションは、派遣側カウンセラーと奨学生との間の一対一の関係を通じて、さらに地区または多地区合同研修セミナーを通じて行われます。奨学生には、派遣オリエンテーション・セミナーへの出席が義務づけられています。地区は地域内で開かれる多地区合同オリエンテーションに参加するか、もしくは他地域のオリエンテーションに奨学生を派遣するよう奨励されています。出席可能なオリエンテーションのリストは、www.rotary.orgに掲載されています。出席できるはずのオリエンテーションに欠席した奨学生は、奨学金の権利を失うこともあります。

オリエンテーションには4つの目標があります。

- 国際ロータリーとロータリー財団の歴史、目標、理想を奨学生に理解させる。奨学金プログラムの目的をはじめ、超我の奉仕の理想を浸透させる機会でもある。
- 「文化の違いに対する意識と尊重の念を深める」という奨学金プログラムの第一目的の達成を目指し、留学前、留学中、帰国後の親善使節としての責務を奨学生に完全に理解させる。
- 奨学生、ロータリアン、学友間の親睦を深めるための交流を促す。
- 奨学生とロータリーとの間の現在の関係を揺るぎないものとする。ここに、ロータリーと奨学生との生涯にわたる関係が生み出される。

3. 奨学生の受入れ

プログラムを成功させるための次なる基本要素は、奨学生の受入れです。受入れが成功するかどうかは、重要な役割を担う各個人にかかっています。派遣側カウンセラーは、奨学生の留学の準備を手伝ったり、奨学生の出身国でのロータリーの連絡役を務めます。受入地区ガバナーは奨学生に対して受入クラブを指定し、そのクラブ内の特定のロータリアンを受入側カウンセラーとして任命します。受入側カウンセラーは、留学中の奨学生に助言や支援を提供するロータリアンです。奨学金小委員会、あるいは受入地区内のロータリアンや学友は、奨学生を歓迎するための活動を組織したり、受け入れる地域社会に奨学生が溶け込むのを助けることによって、受入れを充実させることができます。

受入側カウンセラーはなぜそれほど重要なのでしょうか。

- 受入側カウンセラーは、奨学金期間中、場合によってはその後何年にもわたり、奨学生とロータリーとの橋渡し役となります。
- 受入側カウンセラーは、奨学生が親善の役目（スピーチ、クラブ/地区の奉仕活動への参加、非ロータリー団体へのプログラムの推進等）を果たす手助けをします。学業および国際親善使節という、奨学金の二つの側面は、同程度に重要視されており、受入側カウンセラーは、来訪奨学生のこの両側面における成果を財団に報告するよう求められています。また場合によって、担当する奨学生の最初の奨学金支払い分が受入側カウンセラーに送られることもあります。
- 受入側カウンセラーは、奨学生が地域社会や家庭生活に溶け込むのを助けます。

4. 学友への推進

奨学生が帰国しても、地区の仕事が終わったわけではありません。このプログラムの最終目的は、ロータリーと奨学生との生涯にわたる関係を育むことです。地区は、帰国した奨学生を歓迎し、地区の活動に参加してもらいます。派遣側カウンセラーは、奨学生が学友としてその後も結びつきを維持していくよう重要な役割を再び担うことになります。

地区内の学友と長期的な関係を維持するには、何をすればよいでしょうか。

- 奨学金という貴重な経験に対し、地区のロータリアンに感謝の意を伝え、これらの経験が自らにとってどのような意味があったかを述べる機会を奨学生に与えます。多くの奨学生は、派遣してくれたロータリアンに対してしかるべき形で感謝の意を告げ、奨学金が自分の人生にどれだけの影響を与えたかを伝える機会がないことを残念に感じています。
- 地区にロータリー財団学友会を設立するか、あるいは既存の学友会に入会するよう、奨学生に奨励します。
- 次年度の奨学生の選考とオリエンテーションに参加してもらいます。奨学生のエネルギーと熱意は、次年度の奨学生にやる気を起こさせます。

- 奨学生との連絡を断たないでください。奨学生の連絡先の記録を維持してください。学友は、地区にとって優れた人材となり、将来ロータリアンとなる可能性があります。
 - 財団の学友担当課職員と連絡を取り続けるよう奨励します。
- これらの4つの基本的な活動にロータリアンが積極的に関与することで、本プログラムは、ロータリー財団の使命をさらに推し進めるロータリー親善使節を生み出すことができるのです。続くページに、この重要なロータリアンの役割を果たすために必要な情報を解説しています。

資金調達と奨学金の金額

シェア・システム

シェア・システムの下では、地区から年次プログラム基金へのすべての一般寄付は、年度末に合算され、二つの活動資金、すなわち地区財団活動資金(DDF)と国際財団活動資金(WF)に分けられます。地区は、DDFの資金を使い、国際親善奨学金などの財団プログラムに参加します。1月、財団は2年先に配分可能な地区DDFの残額をリストにまとめ、シェア・システム報告書を各地区ガバナーに送付します。また、財団は、この報告書と併せて、地区が使用できるシェア選択(管理委員会により承認)に関する資料も送付します。地区ロータリー財団委員会は、その後、地区が参加するプログラム、ならびに地区のDDFをどのように使うかを決定します。この決定は、地区ガバナーと地区ロータリー財団委員長の署名をもって承認されます。地区の奨学金のために使用可能な資金について確認するには、地区ロータリー財団委員長と連絡を取る必要があります。

低額奨学金に対するDDF調整

奨学金の一律授与額システムのため、年度末に低額奨学金の調整分が地区に返還されることはありません。

1. 学年度国際親善奨学金

1学年度国際親善奨学金は、1学年度(通常9カ月)用で、ロータリー財団管理委員会によって指定された教育機関に留学するためのものです。奨学金は、ほぼすべての専攻分野に使うことができます。ただし、指導顧問のつかない研究、医学インターンシップや病院研修、あるいは受入国でのフルタイムの勤務のために使用することはできません。候補者は受入国の言語に堪能であることが求められているため、一般的に、本奨学金は外国語の勉強には不適切です。奨学金は1学年度に制限されているため、受領者は留学期間中に学位や修了証、資格などを取得できるとは限りません。奨学金の使用は、1つの教育機関あるいは1カ国における留学のみと限定されています。

奨学金は、往復の旅費、1カ月の集中語学研修費用(財団によって指定された場合)、通常必要なコース費用、部屋代と食費、学用品などにかかる費用を賄うものとして支給されます。財団は個人的な嗜好から生じる追加経費を支払いません。授与額は一律米貨26,000ドルあるいはその相当額です。費用が米貨26,000ドルを超える教育機関を志望あるいは指定された申請者は、一切の追加費用を自己負担しなければなりません。

資料の配布および推進

毎年11月、奨学金関連資料が地区奨学金小委員長に送付されます。委員長は、これらの資料を地区内の各クラブに配布し、地区からの奨学金としてどの程度の支給が可能なのかを通知する責務があります。地区が支給を計画している各奨学金に対し、1名の候補者を推薦するよう各クラブに奨励します。小委員会はまた、地区が定めた提出期限やその他の地区関連の情報をクラブに提供し、申請手続についてのクラブからの問い合わせに答えることができなければなりません。

クラブの奨学金小委員会は、以下を担当するものとされています。

- 興味を持った候補者からの問い合わせに答える
- 興味を持った候補者に資料や指針を提供する
- 記入漏れのないよう、申請書を審査する
- 有望な候補者と面接をする
- 地区の審査に委ねるため、最も優れた候補者を推薦する(各奨学金に対し1名に限る)
- 推薦した各候補者に対し、派遣側カウンセラーを任命する(第13ページ参照)

申請期限は、地区の期限に合わせ、個々のロータリー・クラブによって設定されなければなりません。クラブの期限は、奨学金期間開始の前年の、早ければ3月、遅くとも8月15日までです。例えば、2011年8月に留学を開始したい候補者は、2010年3月から8月の間に地元クラブに記入済の申請書を提出する必要があります。クラブは、クラブが推薦する申請書が、地区の期限に従って地区委員会に提出されるよう、地区と密接に連絡を保たなければなりません。

メディア

地区とクラブの奨学金小委員会は、奨学生を募集し、奨学金プログラム一般を推進するために、さまざまなメディアを活用するよう奨励されています。資金があれば、大学の新聞に、候補者の関心を引くような広告を載せることを検討してください。

大学・短大

地元の短大や大学は、有望な候補者を探す絶好の場所です。留学関係の事務局に連絡し、国際親善奨学金プログラムについて知らせてください。留学関係を担当する大学職員に、地元ロータリアンの連絡先を伝えてください。大学や短大のキャンパスで情報提供のための説明会を開くこともご検討ください。

ロータリー財団はまた、世界各地の著名な大学に資料をEメールで送付し、募集中の奨学金を推進するために地元ロータリー・クラブとの連絡を取り合うよう奨励しています。

ローターアクト・クラブ/ロータリー青少年指導者養成プログラム参加者

奨学金プログラムを推進するもう一つの絶好の場所は、ローターアクト・クラブです。ローターアクト・クラブの会員は、通常ロータリーの目標に精通しており、地域社会での奉仕活動に積極的に参加したり、しっかりとしたリーダーとしての素質を備えているものです。ロータリー・クラブは、有資格になったら国際親善奨学金を申請するよう、ロータリー青少年指導者養成プログラム参加者に奨励することもできます。

インターネット

インターネットは奨学金の機会について学生が調べる、最も一般的な方法です。地区がウェブサイトを持っている場合は、奨学金に関する情報と地元での連絡先を掲載することをご検討ください。また、FAQ（よく尋ねられる質問）への回答なども含め、将来および現在の奨学生やロータリアンのために国際親善奨学金に関する情報を豊富に提供するRIのウェブサイト（www.rotary.org）へのリンクを、地区のウェブサイトにも設けることもできます。奨学金申請書（139-JA）は、ウェブサイトからもダウンロードできます。

寄贈奨学金、冠名奨学金、奨学金基金

地区が寄贈奨学金、冠名奨学金、奨学金基金を利用できる場合、ロータリー財団が地区ガバナーに通知します。これらの特別奨学金の種類は、DDFを使う必要はありませんが、選考手続に関して条件が付いている場合があります。同様に、地区が非ロータリー国へ奨学金を寄贈する場合、選考に関する条件すべてを把握しておかなければなりません。

寄贈奨学金

シェア・システムにより、地区は、その裁量で奨学金を他地区に寄贈することができます。これは、低所得国の奨学生が奨学金を受ける機会を増やすための重要な方法です。ロータリアンの参加と地区間の協力関係を推進するため、寄贈奨学金の候補者を選ぶ際には両地区が合同で選考します。具体的には、受領する地区（つまり、寄贈を受ける地区）が面接をし、奨学金の有望な候補者を選出します。その際、寄贈地区が指定した条件に適うよう審査します。選出されたこれらの候補者

の申請書が、寄贈地区へと提出され、そこでの最終選考を経て、承認されます。このようにして、両地区のロータリアンが、最適な奨学金候補者を協力して選出します。

受領する地区の場合

寄贈奨学金を受領する地区のガバナーに、ロータリーが寄贈について通知します。その後、受領地区の奨学金小委員長が寄贈地区に連絡して、候補者の選考において何らかの条件があるかどうかを確認します。多くの場合、寄贈地区は、候補者が寄贈地区内にある大学、短大、語学学校で勉強することを具体的条件として提示します。

寄贈奨学金に関する情報は広範囲に広報し、すべての候補者に留学予定地域の教育機関を知らせなければなりません。寄贈される奨学金の諸条件に従うため、寄贈奨学金の候補者は、5つの希望機関の代わりに、同じ地域で1カ所か2カ所の教育機関のみを志望しても差し支えありません。寄贈奨学金ごとに、地区が確認した申請書を少なくとも2通寄贈地区に提出し、寄贈地区が最終選考と確認を行います。地区は、10月1日までに寄贈地区が最終確認を終えるだけの時間的な余裕が持てるよう、9月1日までに寄贈地区に申請書を提出しなければなりません。

寄贈する地区の場合

他地区に奨学金を寄贈する地区の奨学金小委員長は、奨学金授与の地区締切日や、その他の奨学金の条件を明確に伝えるため、受領地区と連絡を取らなければなりません。地区はまた、寄贈の際に、教育的プログラムとロータリー・センター共同資金のための寄贈書式を3月1日までに提出し、財団にもこれらの条件を知らせなければなりません。地元地区内の教育機関へ留学するための奨学金を寄贈する場合は、可能な限り、受領する地区に大学のパンフレットや願書を送付してください。成功には、寄贈地区と受領地区の間の連絡が不可欠であることが実証されています。

留意事項：寄贈奨学金の期限は、その他の奨学金と同じです。記入され、推薦された申請書式は、10月1日までにロータリー財団に提出されなければなりません。寄贈奨学金の候補者の選考には通常よりも時間がかかるため、地区委員会は、この期限に間に合うよう、十分な時間的余裕をもって受領地区に連絡を取る必要があります。

非ロータリー国への寄贈奨学金

地区はまた、任意に、非ロータリー国の人々に奨学金を授与することもできます。義務づけられた正式な寄贈の手続きはありませんが、このような奨学金授与は非ロータリー国への寄贈奨学金と見なされます。地区がこのような寄贈を選択する場合は、以下の点にご留意ください。

- 寄贈地区は、奨学生の母国で実用的な価値がある専攻分野の申請者を優先し、選定する責務があります。
- 奨学生は、ロータリー国の国民であるという条件を除く、奨学金のその他すべての資格条件を満たしていなければなりません。非ロータリー国のリストは、RIのウェブサイトを参照してください。
- 寄贈地区は、奨学生の派遣地区と見なされ、派遣地区としてのあらゆる責務を果たすよう求められます。
- また、奨学生が寄贈地区の国に居住または留学したことがない場合は、寄贈地区は自ら受入地区となることもでき、その場合は志望する留学機関を地区内から指定するよう奨学生に伝えます。
- 申請時点で奨学生が過去に2年間以上寄贈地区に居住したことがある場合は、奨学生は寄贈地区あるいは自分の母国以外の国から志望校を選ばなければなりません。

- 奨学生は、奨学金期間終了後、自国に帰国しなければなりません。寄贈（派遣）地区は、奨学生から帰国についての確約を得ておかなければなりません。

冠名奨学金

冠名奨学金は、個人、法人、あるいは税金の優遇を受けている財団による一口の寄贈を通じて授与されるもので、奨学金のシェア選択所要額と同額です（米貨26,000ドル）。寄贈者は、候補者選考の具体的な条件を付けることができ、派遣地区はこれらの条件に従わなければなりません。ロータリー財団は、地区で使用できる冠名奨学金がある場合、地区ガバナーに具体的な条件を通知します。

申請を提出する前に、奨学金小委員会委員長は、全条件が満たされており、申請書式の地区による推薦のページの該当欄が漏れなく記入され、資金源（冠名奨学金）が明示されていることを確認しなければなりません。

奨学金基金

ロータリー財団では現在、十分に資金を蓄えた60以上の奨学金基金を管理しており、その他にも将来使用可能になるものがあります。奨学金基金は、その年の特定の奨学金プログラムのいずれか一つの費用に相当あるいはそれを上回る収益があつた場合に使用可能となります。多くの奨学金基金には、専攻分野および留学先に関する条件があります。

地区で使用できる奨学金基金がある場合は、5月に財団が地区ガバナーに通知します。申請を提出する前に、奨学金小委員長は、全条件が満たされており、申請書式の地区による推薦のページの該当欄が漏れなく記入され、資金源（奨学金基金）が明示されていることを確認しなければなりません。

選考手続

資格に関する規定

すべての国際親善奨学金の候補者は、以下の条件を満たしていなければなりません。

- 候補者は、奨学金期間開始時点で、大学を少なくとも2年修了した人であるか、高等学校卒業生で、少なくとも2年間一般に認められた職業に従事している人でなければなりません。
- 候補者は、ロータリー・クラブがある国の国民でなければなりません。
- 候補者は、ロータリアン、名誉ロータリアン、クラブ・地区・その他の国際ロータリー機関の職員であってはなりません。前述範疇の人の配偶者、直系家族（血縁による子または孫、入籍または未入籍の養子）、直系家族の配偶者、尊属（血縁の、あるいは入籍または未入籍の両親や祖父母）もまた、受領資格を有しません。ロータリアンおよびロータリアンの親族は、ロータリアンがクラブを退会してから36カ月が経過するまでは、奨学金受領資格を有しません。
- 申請は、申請者の本籍、現住所、全日制の在学地、常勤の勤務地のいずれかの地元ロータリー・クラブを通じて行われます。
- 留学あるいは研修は、派遣側となるロータリー国あるいは地区ではなく、ロータリー・クラブが存在するその他の国で行われなければなりません（ただし、寄贈奨学金の受領者は、寄贈地区に留学することもできる）。
- 国際奨学金には、年齢や性別の制限はありません。
- ローター・アクターも申請資格を有し、その他一切の受領資格に適っている場合には、奨学金を申請することが奨励されています。

- 体が不自由な人も財団の奨学金を授与する資格を有します。奨学金の資格を備えていれば、これらの申請者を見過ごすべきではありません。派遣地区や受入地区のロータリアンの支援の下、これまでに体の不自由な学生が国際親善奨学生としての役割を見事に果たしています。

クラブによる推薦

クラブの奨学金小委員会は、ロータリーに申請者を紹介するという重要な役割を担っています。小委員会は、全申請者の留学目的を検討する必要があります。地区の選考委員会に推薦する申請書を提出する前に、候補者と面接をします。小委員会は、地区が支給する予定の各奨学金に対し、それぞれ1名ずつ申請者を推薦することができます。奨学金候補者の審査基準に関しては、後述の「候補者との面接」をお読みください。

推薦した各候補者に対し、派遣側カウンセラーを指定します。派遣側カウンセラーは、申請時に候補者を助け、地区面接の準備のために手助けをします。理想的には、派遣側カウンセラーは、情報提供者および良き指導者としての役割が担える人がよいとされます。

地区の選考手続

地区奨学金小委員会は、奨学生の選考を成功させるために、いくつかの任務を遂行しなければなりません。その任務には、候補者面接の準備、面接の実施、候補者の審査、面接後の決定が含まれています。

地区は、有能な選考委員会を組織しなければなりません。可能な限り、委員会は地区ガバナー、地区ガバナー・エレクト、元奨学生、申請者の語学能力を審査するための外国語に堪能な人を含めるようにしてください。

地区面接の前に

地区面接に備えて、選考委員会は質問を準備し、候補者の略歴や目標に目を通して申請書を審査します。申請書を審査することによって、申請書が漏れなく記入されているか、すべての必要書類（小論文、情報資料、語学証明書、推薦書式）が揃っているかを確認することができます。

面接の前に、奨学金の目的と義務を説明する説明会を開き、すべての候補者に出席してもらうとよいでしょう。できれば、説明会には地区ガバナー・エレクトに出席してもらってください。この説明会で、候補者が奨学金の全条件を完全に理解できるよう、「国際親善奨学金申請書 (139-JA)」の「申請者誓約」のページに記載された全条件を候補者とともに読み直します。

候補者との面接—どのような候補者を探すべきか

候補者を選出する上で、委員会は、将来性のある奨学生がどのようにプログラムの目的を推進できるかを考慮しなければなりません。例えば、世界中の地域社会の人道的ニーズに取り組むことのできるリーダーを育成するために、委員会は、強いリーダーシップを備えた候補者を探し出す必要があります。

さらに、管理委員会は、平和と紛争解決、水と衛生、母子の保健医療といった研究分野を通じて、人道的ニーズに取り組むことのできる候補者を選出するよう地区に奨励しています。

クラブと地区の両方の面接で、委員会は、候補者が志望校を十分に調査したかどうかを確認しなければなりません。候補者は、専攻分野と志望校の2点について明確で現実的な目標を持っていないければなりません。また、申請書に挙げた希望教育機関で、希望する専攻分野が提供されているかどうかを確認しなければなりません。このような候補者によって、国際親善奨学金プログラム

が、地理的に奨学生を均等に配置し、世界中の全地域に影響を与えることができるようになるのです。候補者は、特定の教育機関に固執せず、柔軟な姿勢を持たなければなりません。1つの教育機関のみを希望している候補者は、通常、最適格者とは言えません。

最も肝要なことは、候補者に文化の違いに対する理解を深め、尊重する親善使節としての素質を求めなければならないということです。委員会は、候補者が自国の代表として、また海外でロータリーの代表としてふさわしいかどうか、また、どのように新しい文化に適應することができるかに重点を置いて審査してください。

面接中、選考委員会は、候補者に奨学金プログラムの目的を明らかにしなければなりません。そして、学業と親善使節という奨学金の特質を強調しなければなりません。奨学金受領者は、留学中、優秀な学業成績を維持するよう期待されています。また、候補者は、世界理解と平和を推進し、派遣地区と受入地区のロータリアンとの交流を深めるというロータリー奨学金の目的を理解していないければなりません。

面接中の選考委員会のもう一つの責務は、候補者が、志望国の言語に堪能であることを確かめることです。できれば、面接の一部を該当言語で行うことを財団は奨励しています。

最後に、選考委員会は、もう一度、各候補者と「奨学金申請書」(139-JA)の申請者の証明と地区の署名のページの全項目を検討し、各候補者がすべての事項を完全に理解していることを確認しなければなりません。

候補者に尋ねる質問の見本は、第20ページの補遺Aを参照してください。候補者の評価に役立てるために、第21ページの補遺Bの見本と同様の書式を作成するとよいでしょう。

奨学生として選ばれた場合、出発前にオリエンテーション・プログラムに出席する義務があることを、面接中、候補者に伝えてください。

候補者との面接後

面接に次いで、委員会は、時間をかけて候補者を評価し、誰がロータリー奨学生として最も適格であるかを審査します。優れた特性、リーダーシップ、コミュニケーション能力、成熟度、柔軟性、親善使節としての候補者の素質に重点を置いてください。選考された候補者は、留学中のみならず、その後も長年にわたり、ロータリーと自国を代表することになると期待されています。

選考委員会が、面接後、最良の候補者を決定するにあたって役立つ検討事項については、第22ページの補遺Cを参照してください。

留意事項:クラブと地区は、管理委員会の承認を得るまでは、確認した候補者を公表してはなりません。

管理委員会の承認と留学機関の指定

地区推薦の奨学金申請書は、奨学金期間が開始される前の年の10月1日までにロータリー財団に提出しなければなりません。例えば、2011年7月1日から2012年6月30日の間に留学を希望する候補者の申請書は、2010年10月1日までに財団に提出されなければなりません。申請書は7月より財団の教育的プログラム担当職員によって処理され、申請書の記入に不備な点がないかどうかを確認されます。書類不備の場合、財団職員がその旨を地区に通知します。書類不備の場合は、申請書に対して何の手続きも進められませんので、地区は、申請書提出時にすべての書類が揃っているよう細心の注意を払ってください。

管理委員会の承認直後に、学校指定の書類が奨学生、地区奨学金小委員長、地区ロータリー財団委員長、地区ガバナーにEメールで送られます。申請書が10月1日の最終期限までにロータリー財団に届いていれば、最初の授与発表通知が12月15日までに送付されます。

奨学生の地理的配置

世界中の教育機関に奨学生を配置するにあたり、管理委員会は各地域に平等に配置することを目指しています。補遺Fは、管理委員会がより多くの奨学生を留学させたいと望んでいる国のリストです。10月1日の締切日までに地区が候補者の申請書を提出したとしても、志望教育機関のうちのいずれかへの指定が候補者に保証されているわけではありません。

選考委員会が候補者とともにプログラムの目標を入念に確認すれば、候補者は現実的な期待を抱き、どのような妥当な教育機関を指定されても喜んで受け入れることができるはずです。

名声のある教育機関の数は限られています。以下の理由により、多くの奨学生を数少ない名門校に指定することはできません。

1. 多くの奨学生を少数の教育機関に指定することは、ロータリー世界に奨学生をバランス良く割り当てるといふプログラムの目標に反します。
2. 人気のある大学が所在する地区のロータリアンが、毎年、大勢の奨学生を受け入れることはできません。
3. 奨学生をあまり受け入れておらず、もっと派遣して欲しいと要望する地区が数多くあります。管理委員会は、こうした要望に応えるよう最善を尽くしています。

例えば、通常、1年度に、200名以上の奨学生が英国のロンドンやオックスフォード、フランスのパリ、米国のニューヨークの大学を志望します。

管理委員会は、通常、1ロータリー地区に15名を超える奨学生を割り当てることができませんので、人気の高い地域や大学に指定されたいという希望をすべて叶えることは不可能です。人気地域へは奨学生が順次割り当てられ、その数が定員に達すると、それ以上他の奨学生が同地域に割り当てられることはありません。

奨学生は、既に12カ月以上居住あるいは留学したことがある国へ指定されないということにご留意ください。

この規定の例外とみなされるのは次のような状況です。

- 候補者が、10歳前に居住／留学した地域
- 候補者の言語への関心あるいは能力が、特定の地域に限定されている場合（例えば、デンマーク語を話す学生がデンマークへ、タガログ語を話す学生がフィリピンへ留学することなど）

奨学生の留学先と文化交流をできる限り幅広いものとするために、特定の受入地区への留学を指定されるのは、一つの派遣地区から1名のみと限定されています。

奨学金の候補者は志望国の公式言語に堪能でなければなりません。しかし、ロータリー奨学生をあまり受け入れていない地域で、第二外国語が広く使われている場合、公式言語に堪能でなければならないという要件は必ずしも適用されません。例えば、エジプトでは、英語がアラビア語と同じように一般に使われています。この場合、エジプトを志望する学生は、アラビア語に堪能でなくても、英語に堪能であれば、エジプトの教育機関に指定されることがあります。さまざまな国の語学力の条件については、第23ページの補遺Dを参照してください。

多様性に関する留意事項

毎年、低所得国への留学を指定される国際親善奨学生は、わずか11%にすぎません。管理委員会は、さまざまな国に奨学生を送り、ロータリー世界の中で奨学生があまり行かない、あるいは行ったことがない地域に興味を示す候補者を選ぶことを地区に奨励しています。特定の文化や地域に奨学生が片寄らないように、地区は、これまでの奨学生の留学先も考慮に入れなければなりません。例えば、もし選考委員会が英国とケニアに留学することを志望する同程度の資格を備えた候補者2名から申請書を受け取った場合、委員会は、ケニアを志望する奨学生を選ぶ利点を考慮すべきでしょう（ケニアはほとんど奨学生を受け入れていませんが、英国は多数受け入れていています）。

補欠候補者

委員会が候補者を面接、推薦し、地区や管理委員会がこの候補者を承認した後でも、奨学金を辞退する候補者がいます。毎年、管理委員会が承認した候補者の約1割が奨学金を辞退しています。

地区は正候補者の申請書だけを財団に送付するよう要請されています。補欠候補者の申請書は、必要となるまで地区で保管しておかなければなりません。正候補者が奨学金を辞退した場合には、財団がその旨を地区に通知し、適切な補欠候補者の申請書を提出するよう要請します。

補欠候補者は、

1. 正候補者に授与された奨学金と同じ種類のもの、あるいは同額かそれより少額の費用の別な選択肢を選ぶべきです。
2. 正候補者が奨学金期間開始年の2月1日までに奨学金を辞退した場合に限り、選出が検討されます。
3. 補欠候補者は、正候補者が予定していたのと同じ学年度中に、留学を開始しなければなりません。

奨学生が2月1日以降に奨学金を辞退した場合、その奨学金分のDDF資金は、将来のプログラム年度の財団プログラムに使えるよう地区へ戻されます。

オリエンテーション

海外に派遣するロータリー国際親善奨学生を慎重に選出した後、地区は奨学生に、留学年度に向けての準備を始めさせなければなりません。

奨学生には、派遣オリエンテーション・セミナーへの出席が義務づけられています。出席できるはずのオリエンテーションに出席しなかった奨学生は奨学金の権利を失うこともあります。オリエンテーション・プログラムでは、これから留学する奨学生を友好的な雰囲気の中で一堂に集め、奨学生に期待されていることは何かを説明し、ロータリーに終生献身できるような活動の舞台を設定します。派遣側カウンセラーは、奨学生の準備においても重要な役割を果たします。

派遣および受入れ両奨学生のための地域オリエンテーション・プログラムの費用を賄うために、ロータリー財団の資金を使用することができます。これは管理委員会の決定によるもので、優秀な国際親善奨学生を育成し、長きにわたってロータリーに貢献してもらうには、適切なオリエンテーションが重要であることを強調しています。地区が、相当数の奨学生（最低10名）が参加するような多地区合同研修セミナーの企画を考えている場合は、奨学金担当の財団職員にオリエンテーション補助金の詳細についてお問い合わせください。

オリエンテーションの目的

奨学生のオリエンテーション・プログラムに何を含めるかを決めるのは地区ですが、以下の目的を組み入れることを財団は推奨しています。

1. ロータリー財団国際親善奨学金プログラムの目的を推進すること、すなわち、さまざまな国の国民の間に理解と友好関係を促進する。
2. これから留学する奨学生に、国際ロータリーおよびロータリー財団の歴史、目標、理想を理解させる。
3. 奨学生が留学前、留学中、帰国後に親善使節としての役割を果たさなければならないことを強調する。
4. 奨学生に、スピーチやプレゼンテーションの立案・実施方法に関する研修を提供する。
5. 奨学生が留学中に直面すると思われる文化的相違について、ある程度の心構えを持たせる。
6. 奨学生、学友、派遣地区のロータリアンが打ち解けられるような雰囲気づくりをする。
7. 奨学生に、セクハラ（性的嫌がらせ）や不適切な行為への対処の仕方を伝え、準備させる。
8. 奨学生とロータリーとの間の継続的関係をつくり、深める。
9. ロータリー財団国際親善奨学金プログラムの派遣側カウンセラーを指導し、プログラムの長期的影響力を確実にするために、カウンセラーが重要な役割を果たすことを強調する。

派遣側カウンセラー

ロータリーの国際親善奨学金プログラムならではの特徴の一つは、派遣側カウンセラーの役割にあります。派遣側カウンセラーは、推薦クラブが指名したロータリアンで、海外に留学する奨学生の相談相手および良き指導者となります。

派遣側カウンセラーは、奨学生をいろいろな方法で援助することが求められています。カウンセラーの多くの任務は、海外に留学する奨学生に効果的なオリエンテーションを提供するためにいずれも不可欠なものばかりです。以下にいくつかの任務を挙げます。

- 奨学生にロータリーを紹介し、地区面接の準備を手伝う。
- ロータリーの理想について話し合い、国際親善使節としての目標を設定する。
- 奨学生が、留学国でスピーチをする際に使用するために、自分の地域社会、地域、国の情報を収集するのを助ける。
- 奨学生と一緒に「国際親善奨学生要覧」(133-JA)に目を通す。奨学金の支給額を理解させる。
- 奨学生と密に協力し、出発前の必要事項を完了するよう援助する。

派遣側カウンセラーは、役割遂行の参考として、www.rotary.org/jaからダウンロードできる「国際親善奨学生要覧」と財団職員から提供される派遣側カウンセラーの責務一覧表に目を通しておく必要があります。

オリエンテーション・セミナーの立案と実施

まずは、地区のオリエンテーション・セミナーの出席者を決める必要があります。海外に留学する奨学生とその派遣側カウンセラーは当然のことながら、元奨学生、奨学金プログラムに関して実用的な情報を提供できるロータリアン、外国または文化の問題に関して有益な情報を提供できる個人や教育者などの出席も必要です。海外に留学する奨学生に、情報や熱意、意欲を与えるという点では、財団学友が特に役立ちます。学友は、奨学金期間終了後も常にロータリーと交流し続けるよう、奨学生に奨励することができます。

奨学生のオリエンテーション・セミナーは、週末、1日、略式のプログラムなど、いくつかの形式があ

ります。強く推奨されるのは週末の形式ですが、1日や略式のものでも同様の効果を上げることができます。プログラムを計画する際は、相互参加型の活動が最も効果的で、楽しめる活動であることを念頭に置いてください。パネル討論やロールプレイ（参加者が新しい国の奨学生の役割を演じます）はセミナーに活気を与え、啓発的なものとなります。また、このような活動で親睦感が生まれます。

週末のプログラム

週末のプログラムは、多地区合同行事に最適です。代表的な週末のプログラムは、金曜日の夕刻に開始し、日曜の午前中に終了し、参加者が2泊するものです。金曜日夜刻の日程は、登録、夕食、歓迎の挨拶、次いで親睦の時間へと続きます。土曜日の日程には、ロータリー財団と奨学金プログラムに関する各種の討論や講演、学友との相互交流、奨学生の短いスピーチ、食事、親睦の機会が含まれます。日曜日には、まとめと閉会の挨拶を述べます。

留意事項: 週末のプログラムは、1泊だけでも可能です。2泊のプログラムの長所は、非公式な交流という貴重な時間を割り当てることができる点です。

1日のプログラム

1日のプログラムは、1地区または2地区合同行事に最適です。代表的な1日のプログラムは、早朝から始まります。午前中は、登録、歓迎の挨拶と紹介、次いで国際ロータリーとロータリー財団の概要説明、昼食、元奨学生の講演、ロータリー奨学生に期待されている事は何かについての討論へと続きます。プログラムの結びは、ロータリアンの指導者による閉会の挨拶で、夕食前に散会します。

略式プログラム

地区のオリエンテーション・プログラムは、会期が1日か2日のどちらかに限られているわけではありません。略式のプログラムや会合でも、海外に留学する奨学生の目標に合うことができます。派遣地区は、以下に提案されているアイデアを自由に活用し、地区のニーズに合ったオリエンテーション・プログラムを企画することができます。

- 奨学生を地区大会に出席するよう招待します。奨学生に、奨学金プログラムに関する公開討論のパネリストを務めてもらいます。
- 派遣側カウンセラー、地区役員、奨学生のための半日オリエンテーションを手配します。奨学

生に自己紹介と海外留学中の計画について簡単なスピーチをしてもらいます。ロータリアンには、クラブ、地区、国際レベルのロータリーに関する重要な情報を発表するよう依頼します。

- ・奨学生の集団オリエンテーションが難しい場合は、奨学生、派遣側カウンセラー、地区役員による1対1の会合を設けます。ロータリーに関する資料を渡し、留学前、留学中、帰国後における奨学生の責務について話し合います。
- ・派遣クラブの例会や社交行事に出席し、奉仕プロジェクトに参加し、できればクラブ委員会に出席するよう奨学生に呼びかけます。その後、奨学生とロータリアンが昼食やコーヒーを共にして歓談できるよう手配します。
- ・奨学生がクラブ会報、地区ガバナー月信、ロータリアン誌を受け取るよう手配します。

どのような形式にせよ、海外に行く奨学生が親善使節の役割を果たせるよう準備をすることが肝要です。地区に適したオリエンテーションの形式が特定できたら、次年度以降もさらに充実したオリエンテーション・プログラムを実施できるよう、引き続き内容を検討してください。

いずれの形式を採用する場合にも、オリエンテーション・セミナーを組織する際に踏むべき段階がいくつかあります。

1. **ボランティアのセミナー・リーダーを任命します。**地区奨学金小委員長や学友小委員長など、国際親善奨学金プログラムに積極的に関与しているロータリアンを選んでください。このボランティアは、オリエンテーション・プログラムの実施計画の調整、コーディネーターと参加者への招待状の送付などを担当します。
2. **プログラムの規模を定めます。**立案の早期段階で、地区は、単独でオリエンテーション・プログラムを実施するか、一つまたは複数の近隣地区と合同で実施するかを決めなくてはなりません。ほとんどの地区は数人の奨学生だけを派遣するため、財団は近隣地区との共催を検討するよう、地区に奨励しています。他地区と共催する場合、会場等の手配が難しいかもしれませんが、より多くのボランティアと任務を分担することができます。集団の規模が大きければ大きいほど、ロータリーの親睦の機会も多くなります。多地区合同の行事を準備する場合は、関係するロータリアンにすべての計画を報告してください。

3. **日程を決めます。**プログラムの日程を選ぶ際、奨学生が留学の準備をする時期を見計らってください。海外に行く奨学生の全員に都合のよい日ではないとしても、大部分の人に都合がよい日を選ぶように努めてください。
4. **プログラムの講演者を選び、招待します。**プログラムの講演者を選ぶ際には、プログラムの目的を常に念頭に置いてください。参加者が多種多様な考え方や見解を聴けるよう、さまざまな経歴や資格の講演者（ロータリアンとその他）を探してください。講演者には次のような人々がよいでしょう。

— 地区役員を務めるロータリアン。これらの人々には、元・現地区ガバナー、元・現ロータリー財団委員長、奨学金小委員長などが含まれます。この人たちは、国際ロータリーと財団の歴史、国際親善奨学金プログラムの目的と目標など、ロータリーの「全体像」を奨学生に示すことができます。さらに、このような国際ロータリーの各レベルのボランティアは、奨学生が奨学金年度中の役割や責務を理解するのを助けることができます。

— クラブ会長と会員。これらのロータリアンは、地域社会レベルでロータリーがどのように活動しているかを奨学生に説明することができます。また、参加者が留学前、留学中、帰国後も、派遣クラブに対して持つ責務を理解させることもできます。

— ロータリー財団プログラムの学友。ロータリー財団プログラムの元参加者（元奨学生、元研究グループ交換チームメンバー、元ロータリー世界平和フェロー、大学教員のためのロータリー補助金の元受領者など）は、海外に赴く奨学生にとって参考になる体験談や、熱意を与えることができます。こうした体験談によって、異文化に順応するにはどうすればよいか、どのようにスピーチの準備をすればよいか、学業をこなしながらロータリー・クラブ訪問の時間をどのようにしてつくるかなど、学友が援助の手を差し伸べることができます。

5. **会場を予約します。**会場によっては、何カ月も前に予約しておかなければならない所もあります。参加者全員に便利な場所を選んでください。週末のオリエンテーション・プログラムを計画している場合は、宿泊設備のある施設を選んでください。

6. **登録料を決めます。**登録料を設定する際、いろいろなことを考慮しなければなりません。食事の回数、研修用の部屋の使用料、宿泊が必要な場合、宿泊費用はいくらか、参考資料の費用はいくらか、学友の費用はセミナーの実施地区が負担するかどうか、などの要素があります。
7. **財源を確保します。**地区または派遣クラブが、参加者の登録料を負担することがよくあります。会場までの往復交通費を、奨学生の自己負担とすることもできます。さらに、大勢の奨学生が参加する多地区合同セミナーの費用を賄うために、財団の資金を利用することもできます。詳細および補助金の申請は、奨学金担当の財団職員までご連絡ください。
8. **スピーチの準備や実際のスピーチ方法に関する説明を含めます。**奨学生オリエンテーションでは、奨学生がスピーチやその他の発表を求められた場合に、適切に準備し、立派に発表が行えるようにするための研修を盛り込むよう、管理委員会は要請しています。
9. **文化理解のための情報を盛り込みます。**財団は、異文化の理解にプログラムのかなりの時間をあてるよう勧めています。奨学生は、訪問予定の国とその国民について先入観を持っているかもしれませんが（例えば、「日本人は皆勤勉である」とか「アメリカ人は皆金持ちである」など）。
異性との交際、若者と高齢者、教師と生徒などの関係は、国によって大きく異なります。奨学生は地元の習慣を理解し、留学地域において一般に守られている風習に従って行動しなければなりません。日常の服装、言葉遣い、入浴方法などは、習慣の多様性を示す一例です。地元の習慣を知り、それに合わせることで、奨学生は、不愉快な目に遭ったり、誤解されたりせずに済むでしょう。

地区が女性の奨学生を派遣する場合、海外で女性が直面する問題に特に注意を払った方がよいでしょう。男女の役割に対する認識の違いによって、女性が、親善使節としての役割を果たす上で女性特有の難題に直面する可能性もあります。例えば、ロータリーにおける女性の参加の程度は世界各地によって異なることを理解し、留学先の国でどのような振舞いが女性として受け入れられているかを承知しておかなければなりません。その国に留学していた元奨学生や旅行経験のある女性ロータリアンは、この点に関して、役立つ見解を与えてくれるでしょう。事前にこうした問題を承知しておくことは、留学先で不愉快な、ひいては危険な状況に陥るのを防ぐのに役立つ場合もあります。

さらに、医療と教育制度は、世界各地で大きく異なります。これらのことを十分に調べておくよう、奨学生に勧めてください。地元の大学の国際学生課から講演者を招くことで、奨学生の質問に答えたり、またその国の文化を含め、特別な疑問について有益な参考情報を示してもらえましょう。

10. **セクシャルハラスメント（性的嫌がらせ）や不適切な行為について取り上げ、財団はこうした行為を容認しない方針であることを伝えます。**
11. **評価アンケートを渡します。**プログラムに対する意見や感想を表す機会を設けてください。欠点のない完璧な行事は少ないでしょうが、参加者の意見によって高評な点、改善すべき点に分かり、参考になるはずですが、このようなアンケートは無記名にしますが、翌年に海外に留学する奨学生のためのオリエンテーション・プログラムを向上させるために、正直な回答が大切であることを強調してください。

参考資料

活動例

世界本部の奨学金担当職員は、地区でオリエンテーション・プログラムを計画する際に活用できる、オリエンテーション・プログラムの見本を用意しています。オリエンテーションの討論や発表のトピックを以下にいくつかご紹介します。

- 「打ち解ける」。奨学生のオリエンテーションを始める最適な方法は、参加者をくつろいだ気持ちにさせ、互いに知り合えるよう力添えをすることです。例えば、各参加者が2人組になり、決められた質問をし合って、その答えに基づき新しい知人をグループで紹介するという方法があります。
- 分科会討論。二つのグループに分かれて討論します。一つはカウンセラーのグループ、もう一方は奨学生のグループです。例えば、カウンセラーが派遣側カウンセラーの役割について話し合う一方で、奨学生は国際ロータリーやロータリー財団について討論します。
- 質疑応答。奨学生は、小グループにわかれ、国際ロータリーとロータリー財団に関する知識について「ブレインストーミング」（各自が自由に発想を出し合う能力開発法）を行います。各小グループで話し合ったことを全体に発表します。その討論後、奨学生は、それぞれの小グループに戻り、国際ロータリーとロータリー財団に関する質問をいろいろ挙げ、ロータリーについてさらに学びます。
- 「私たちの見方」。元国際親善奨学生が、親善使節としての奨学生の責務について各自の見解を話し合います。
- 体験談。元奨学生は、海外に行く奨学生が奨学金期間中に経験すると思われる文化の相違に備えることができるよう、経験を語ります。
- 地元で活動するロータリー。ロータリー・クラブ会員が、地域社会におけるロータリー・クラブの役割と、国際ロータリーという大きな組織内でのクラブの位置づけについて話します。

- 留学前、留学中、帰国後の奨学生の責務。適格なロータリアン、また場合によっては財団の職員代表が、奨学生がプログラムの各段階で遂行しなければならない責務について話し合います。討議後、パネル討論や「質疑応答」を実施すると役立ちます。

- 文化的理解を深める。奨学生を留学先別（ヨーロッパ、アジアなど）に小グループに分け、各グループに1名のロータリアンと1名の学友を顧問としてつけます。奨学生が経験すると思われる文化の相違とその対応方法を論じます。

- スピーチ。会議の始めに、奨学生に短い即席のスピーチをさせます。その後、グループからの意見と助言を集めます。この目的は、奨学生のスピーチの能力を高めることです。

地域オリエンテーション・セミナー計画キット

財団職員は、ロータリアンがオリエンテーション・セミナーを計画するのに役立つよう、プログラムや関連書簡の見本を取めたキットを編集しました。キットをご希望の方は、奨学金担当部マネージャーまでご連絡ください。

ロータリアン

奨学生のオリエンテーション・プログラムの開催に携わる他のロータリアンも、プログラムを計画する際の格好の相談相手となります。地区の派遣奨学生が参加できそうな、移動可能な距離内での既存の多地区合同オリエンテーションもあるかもしれません。奨学金担当職員は、このようなプログラムに活発に参加しているロータリアンと地区のリストを用意しています。この他の情報は、奨学金担当職員までお問い合わせいただくか、RIのウェブサイト (www.rotary.org) をご覧ください。

奨学生の受入れ

受入側カウンセラー

前述のように、受入側カウンセラーは、奨学金期間開始以前から、奨学生の相談相手および良き指導者として重要な役割を果たします。

受入側カウンセラーの役割は、奨学生が留学国へ出発する前から始まります。受入側カウンセラーが奨学生と連絡を取り、質問に答え、未知の国に対する不安を取り除くために会う時間を持つことは大変重要です。受入側カウンセラーは、自らの活動や奨学生の成績について、ロータリー財団に報告するよう求められています。

毎年4月、奨学金担当職員は、地区ガバナー・エレクトが自らの就任年度にその地区に留学する奨学生全員のために、受入クラブと同クラブ内に受入側カウンセラーを任命するよう要請します。ガバナー・エレクトには、海外からのすべての来訪奨学生の氏名、指定教育機関、略歴などの資料が送られます。任命の要請は、奨学金小委員長に、また、奨学金小委員長が空席の場合は地区ロータリー財団委員長にも写しが送付されます。

派遣側カウンセラーと同様、受入側カウンセラーも、奨学生のための重要な相談相手となります。受入側カウンセラーは、奨学生をいろいろな方法で援助することが求められています。例えば、

- 奨学生の到着時に出迎えの手配をし、受入地区で歓迎します。
- 必要に応じて、奨学生が適当な滞在場所を探し、落ち着くのを援助します。
- 奨学生の到着前に奨学金の1回目の支払いを受け取った場合は、これを奨学生に渡します。
- 奨学生に病院、法律、銀行の利用方法、予算などについて説明します。
- 所定のスピーチの予定を組んだり、クラブと地区の奉仕プロジェクトへの参加を要請するなどして、親善使節としての奨学生の義務が果たせるよう援助します。

- スピーチや発表を行う場に招待してもらうための連絡先を教え、これを助けます。
- 奨学生と財団の連絡役を務めます。度々会って現状を聞いたり、深刻な問題や質問についてエバンストンのRI世界本部の奨学金コーディネーターに報告し、注意を喚起します。
- 奨学生が地域社会や家庭生活に溶け込めるよう支援します。
- 奨学金期間終了の1か月前に提出することになっている最終報告書を奨学生が提出したかどうか確認します。

受入側カウンセラーと受入クラブの会長は、RIウェブサイト (www.rotary.org/ja) からダウンロードできる「国際親善奨学生要覧」(133-JA) と、責務に関する資料 (財団職員から提供されます) に目を通しておく必要があります。

来訪奨学生のためのオリエンテーション

受入側カウンセラーは、到着した奨学生が快調なスタートを切り、プログラム期間中も万事順調に進むよう取り計らうという重要な役割を果たします。受入地区のロータリアンや学友もまた、奨学生を歓迎し、オリエンテーションとなる行事を組織するのを援助することができます。

例えば、毎年9月、フランス学友会は、パリ周辺で到着した奨学生のための週末歓迎会を準備します。この行事には、ロータリアン家族との会食、商工会議所のレセプション、観光などが含まれています。

最初の国際親善奨学金学友会である財団フェロー・リンクは、この30年間、到着した奨学生を同じように歓迎してきました。このグループの「リンク・ウィークエンド」は、英国およびアイルランドの大学を指定された奨学生のためのオリエンテーションとホーム・ホスピタリティを提供しています。この催しでは、奨学生が学友やロータリアンの助言に耳を傾ける格好の機会となり、また、レセプションやグループ活動を提供しています。

学友への推進

国際親善奨学金プログラムの最も重要なことの一つで、見過ごされがちなのは、奨学金期間終了後の奨学生の活動です。ロータリアンに共通する不満は、奨学生の帰国後、何の音信もないということです。一方、奨学生は、彼らがロータリーの行事に招待されないことを嘆いています。海外で国際親善奨学金期間を終了した奨学生である財団学友の帰国を歓迎し、学友小委員会と協力しながら、ロータリーに参加し続けるようにするのは、クラブまたは地区奨学金小委員会の責務です。

派遣側カウンセラーの責務は、第13ページに解説されていることのほかに、帰国する奨学生を歓迎することがあります。帰国後の生活が落ち着いた頃に、元奨学生を地区内のクラブでスピーチをするよう招いてください。スピーチは、クラブ会員に奨学生の体験を聴く機会を与え、ロータリー財団プログラムの広報に役立ち、地区内ロータリアンに財団プログラムの活動例を紹介することにもなります。また、元奨学生は「ロータリーの家族」の一員であると実感し、奨学生としての経験を話すことができます。この他にも、派遣側カウンセラーは、元奨学生が必ずロータリーとロータリー以外の聴衆に対する所定数のスピーチを行い、最終報告を提出するよう確認します。

出発前に奨学生に贈呈することができる学友ピンのみならず、ロータリー財団は、帰国した各奨学生に地区が贈呈する業績賞を用意しています。この贈呈は、帰国した奨学生との活発な交流が始まる出発点となります。

次期財団管理委員長から任命され、43名から成る世界規模の実行グループのメンバーであるロータリー財団学友コーディネーターは、学友に関する重要な情報源です。ロータリー財団学友コーディネーターの役割は、財団学友に対するロータリアンの認識を高め、地区やクラブの奉仕プロジェクトや活動における援助源、またロータリー財団プログラムの効果的な支援者としての学友の存在を推進することです。コーディネーターは、地区小委員会委員長と協力して、プログラム学友に関する心温まる話題をまとめ、「Reconnections (リコネクションズ)」や他の出版物への掲載用として財団担当職員に提出します。地域担当のロータリー財団学友コーディネーターについての詳細は、「Official Directory (公式名簿)」またはRIウェブサイトを参照してください。

元奨学生がロータリーとのつながりを保ち続けるもう一つの良い方法は、数多く存在し、世界中で活動している財団学友会に入会することです。地域に学友会があれば、帰国した奨学生の住所を知らせてください。地区に学友会がない場合、学友自身が学友会を発足できるよう協力してください。

こうして学友会を通じて学友と交流を維持することができ、学友を地元ロータリー・クラブまたはローターアクト・クラブの会員候補として検討することもできます。学友会は、毎年地区に留学する来訪奨学生の歓迎会を開催したり、クラブや地区の奉仕プロジェクトに参加するなど、多様な活動を実施することができます。学友会の発足に関する情報は、世界本部のロータリー財団学友担当職員に連絡し、詳細資料を請求してください。財団学友についての情報は、RIのウェブサイト (www.rotary.org)でもご覧いただけます。

財団は、地区がその地域の学友を探すことのできる学友データベースを持っています。この他にも、財団は、隔月のオンライン・ニュースレター、「Reconnections」をウェブサイト上で発行します。このニュースレターは、学友の現在の活躍の様子を伝える記事を掲載しています。また、奨学金留学後の学友の近況報告を呼びかけています。

元奨学生である学友をロータリーに関与させ続けるために、地区ができるその他の活動には、以下のようなものがあります。

- 帰国した奨学生から住所を聞き、学友名簿または学友データベースを作成する。その後、この名簿（データベース）を絶えず更新し、常に最新のものを維持する。この資料を活用して、学友をロータリーの活動や行事に招待する。

- 「消息不明」の学友を見つけるために学友の連絡網を活用する。
- クラブ、地区、ローターアクトの社会奉仕と国際奉仕プロジェクトに、学友の協力を求める。
- 帰国した奨学生が地区外に転出する場合、新しい居住地区のロータリアンを紹介する。

多くの国際親善奨学生は、生涯に一度の機会を与えてくれた派遣側のロータリアンに深く感謝しています。財団学友がロータリーに関与し続けられるようにすることは、奨学生がロータリーへ恩返しする機会となり、国際親善奨学金プログラムに長期的な影響を与えることとなります。

補遺A

候補者に尋ねる質問

以下は、ロータリー奨学生候補の総合的な知識や適性を判断するための参考として、ロータリー財団職員および元奨学金委員がまとめたものです。

自国および世界に関する候補者の知識

自国が現在直面している重要な問題は何だと思えますか。その問題の現実的な解決策として、どのような方法があると思えますか。

自国で、どのような点が変わればよいと思えますか。

他国の人々に、自分の国についてどのようなイメージを伝えたいと思えますか。また、どのようにして伝えますか。

世界の主な問題は何だと考えますか。また、それに対する何らかの解決策があると思えますか。

これらの質問に対し、第一志望留学国の言語で答えることができますか。

ロータリーおよびロータリー財団国際親善奨学金に関する候補者の知識

国際ロータリーの世界的な目標は何であるか知っていますか。

ロータリーが奨学金を支給する目的は何ですか。また、あなたはどのようにしてこれらの目標の推進を手伝うことができますか。

「親善使節」という言葉は、どのような意味だと思えますか。

留学前、留学中、帰国後の、あなたのロータリーに対する責任はどのようなものであると理解していますか。

他の奨学金ではなく、ロータリー奨学金を申請するのはなぜですか。

あなたは奨学金に何を期待していますか。

あなたはお返しとしてロータリーに何を「与える」ことができますか。

補遺B

国際親善奨学金

面接評価の見本

記入にあたって

数多くの候補者と面接する際、最終決定の時点までに、一人一人の候補者についてすべて覚えておくことは困難です。委員が各候補者の印象を思い出すためには、評価書式が役立ちます。1～10など、誰もがわかるような点数制を使ってください（1が最も低い点、10が最も良い点）。面接終了後、点数を合計し、学生の国際親善奨学生としての資質や、候補者がどのようにしてプログラムの目的達成に貢献できるかなどを客観的に考慮に入れながら、学生に順位をつけます。

本書式は見本に過ぎませんので、地区の用途に合わせて修正してください。

候補者番号											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	最高点
申請書より											
学業成績											
地域社会奉仕											
考え方											
面接から判断した国際親善使節としての資質											
リーダーシップ											
人柄											
熱意											
話す能力											
成熟度／ 目的に対する真剣さ											
希望留学国に関する知識											
その他の事柄 (ユニークな研究分野、 人道的な専攻分野など)											
総合評価											
順位											

本書式は、第5000地区（米国ハワイ州）で考案され、使用されているものを基にしています。

補遺C

候補者面接後の委員会のための指針

候補者の優劣を見定め、誰がロータリー親善使節として最も適格であるかを判断するために、以下の検討事項が役立ちます。以下の各事項を候補者に当てはめ、決定の参考にしてください。

この候補者はプログラムの目標達成に貢献できるか。

なぜこの候補者が、学業あるいは職業的な意味で優れていると思われるのか。

学歴あるいは職歴から見て、この候補者は今年度の申請者の中で最も優れているか。

候補者の選考分野は人道的に強い影響力をもたらすと思われるか。

この候補者はリーダーとしての能力を示しているか。

この候補者の成績と、その次に優れている候補者の成績には、大きな違いがあるか。もし大きな違いがないなら、なぜもう一方の候補者ではなく、この候補者を選ぶのか。

この候補者の成熟度はどの程度か。

この候補者は、すべての質問に対し上手く受け答えたか。

この候補者の言葉によるコミュニケーション能力はどの程度か。

質問や委員会に対するこの候補者の態度はどうだったか。

強い自己表現をしたか。

この候補者は奨学金の目的をよく理解しているか。

この候補者は教育機関の指定に関して、柔軟な態度を示しているか。

世界の社会的および政治的問題に関するこの候補者の理解は洗練されているか。

この候補者は、自由なアイデアの交換ができないような立場にあるか。

この候補者は、上手く人付き合いができるか。

この候補者は、人の話を聞く能力や、人前で話す能力があるか。

この候補者は過去に海外留学したことがあるか。この奨学金がなくても海外留学することができると思われるか。

補遺D

語学力の必要条件

毎年、特定の国に関する語学力の資格条件に関する質問が財団に寄せられます。下記の表には、希望国の言語が堪能でなくても、それに代わる言語でも受入れが可能な国が記載されています。その理由は、多くの場合は、当地のロータリアンが、留学国の言語に堪能ではなくても現地で広く使われている言語を話せる奨学生なら受け入れたいと表明しているからです。

申請時にこれらの使用言語に堪能であることは要求されていません。しかし、奨学生は、その国の使用言語で会話する能力を伸ばすことが求められ、勉学を開始する前月に、留学国で1カ月間、財団の負担で語学研修を受けることができる場合があります。代わりとなる「その他の言語」が以下に記載されていない国では、申請者は、希望国の言語に堪能でなければなりません。

アジア

国	言語	その他の言語
香港	中国語 (広東語)	英語
インドネシア	インドネシア語	英語
イスラエル	ヘブライ語	英語
マレーシア	マレー語	英語
フィリピン	タガログ語	英語
シンガポール	中国語 (標準)	英語
台湾	中国語 (標準)	なし
タイ	タイ語	英語

ヨーロッパ (スカンジナビアおよび低地帯)

国	言語	その他の言語
ベルギー		
ワロニア	フランス語	なし
フランダース	オランダ語	英語または フランス語
デンマーク	デンマーク語	英語
フィンランド	フィンランド語	英語
ハンガリー	ハンガリー語	英語
アイスランド	アイスランド語	英語
ルクセンブルグ	フランス語、ドイツ 語またはルクセン ブルグ語	なし
オランダ	オランダ語	英語
ノルウェー	ノルウェー語	英語
スウェーデン	スウェーデン語	英語

スイス

スイスでは、奨学生は、教育機関の所在地で使用されている言語を話さなくてはなりません。スイスのいくつかの都市で必要な言語は、以下の通りです。

フランス語: フリブール、ジュネーブ、ローザンヌ、ヌーシャテル

ドイツ語: バーゼル、ベルン、ルツェルン、セント・ガレン、ピンテルトゥール、チューリヒ

イタリア語: ロカルノ、ルガーノ

アフリカ

アフリカのロータリー国で必要な言語は、以下の通りです（「*」が付いている国は、アラビア語も公式言語です）。

英語: ボツワナ、エジプト*、エチオピア、ガーナ、ケニア、レソト、マラウイ、モーリシャス、ナミビア、ナイジェリア、シエラレオネ、南アフリカ、スワジランド、タンザニア、ウガンダ、ザンビア、ジンバブエ

フランス語: アルジェリア*、ベニン、ブルキナファソ、カメルーン、中央アフリカ共和国、チャド、コンゴ民主共和国 (ザイル)、ガボン、ギニア、コートジボアール、マダガスカル、マリ、モーリタニア*、モロッコ*、ニジェール、コンゴ共和国、レユニオン、セネガル、トーゴ、チュニジア*

補遺E

国際親善奨学金の理想的候補者の特徴

ロータリー・クラブと地区選考委員会が国際親善奨学金に優れた候補者を選ぶために、ロータリー財団は、ロータリーの「親善使節」に関して標準的と考えられる資質を次のように挙げています（順序不同）。各候補者は、優れた国際親善奨学生となるために、以下の資質をすべて備えている必要はありませんが、これらの資質をより多く備えた候補者は親善使節として優れた成果を挙げると考えられます。

理想的な国際親善奨学金候補者の特徴

- 優れたリーダーシップとリーダーとなる可能性を備えていること
- 奨学金授与に関する自分の義務を理解している。特にロータリーおよびロータリー以外の人々に対するスピーチの義務を理解していること
- 学業や職業における成果が実証されていること
- 留学国の言語が聞きとれ、流暢であること
- 身だしなみが良く、専門職業人らしい外見であること
- 社会奉仕に個人的に貢献することが実証されていること
- 留学中にロータリーの奉仕プロジェクトを見つけ、参加することに興味があること
- 明確で現実的な目標を持っていること
- 成熟した、真剣な目的意識を持っていること
- 人の前で話す能力に優れ、少数の聴衆にも、多数の聴衆にもスピーチをする力があること
- 母国および留学国の両方の歴史、文化、政治に詳しいこと
- 世界情勢や微妙な話題について討論するとき、明確かつ外交的であること
- 世界理解や世界平和をどのように推進するかについて具体的な考えを持っていること
- 志望先の教育機関および代替教育機関について十分に調べていること
- 通常は国際親善奨学生を受け入れられないような国にも留学する意思があること
- 世界の人道的ニーズに直接の影響を及ぼすような研究分野に興味を持っていること
- ロータリーの理想を、私生活および職業生活で実践する意思があること
- 柔軟性がありユーモアの感覚を持っていること
- 奨学金の終了後もロータリーと全生涯にわたる関係を維持することに誠実な態度を示していること

補遺F

国際親善奨学生に推奨される留学地域

地域	国	指定に必要な言語	有用な第二言語
アフリカ	ベニン	フランス語	-
アフリカ	カメルーン	フランス語	-
アフリカ	ガーナ	英語	-
アフリカ	ケニア	英語	スワヒリ語
アフリカ	マラウイ	英語	-
アフリカ	モロッコ	フランス語	アラビア語
アフリカ	ナイジェリア	英語	-
アフリカ	チュニジア	フランス語	アラビア語
アフリカ	ザンビア	英語	-
アフリカ	ジンバブエ	英語	-
アジア	香港	英語	中国語 (広東語)
アジア	インド	英語	現地語
アジア	ヨルダン	英語	アラビア語
アジア	マレーシア	英語	マレー語
アジア	ネパール	英語	ネパール語
アジア	フィリピン	英語	タガログ語
アジア	シンガポール	英語	標準中国語
アジア	韓国	韓国語	-
アジア	スリランカ	英語	現地語
アジア	タイ	タイ語	-
アジア	トルコ	英語	トルコ語
ヨーロッパ	チェコ共和国	英語	チェコ語
ヨーロッパ	デンマーク	英語	デンマーク語
ヨーロッパ	フィンランド	英語	フィンランド語

地域	国	指定に必要な言語	有用な第二言語
ヨーロッパ	ギリシャ	英語	ギリシャ語
ヨーロッパ	ハンガリー	英語	ハンガリー語
ヨーロッパ	アイスランド	英語	アイスランド語
ヨーロッパ	リトアニア	ロシア語	リトアニア語
ヨーロッパ	ルクセンブルグ	フランス語またはドイツ語	ルクセンブルグ語
ヨーロッパ	ノルウェー	英語	ノルウェー語
ヨーロッパ	ポーランド	英語	ポーランド語
ヨーロッパ	ポルトガル	ポルトガル語	-
ヨーロッパ	ルーマニア	フランス語	ルーマニア語
ヨーロッパ	スロバキア	英語	スロバキア語
ヨーロッパ	ウクライナ	ウクライナ語	ロシア語
中南米	ベリーズ	英語またはスペイン語	-
中南米	ボリビア	スペイン語	-
中南米	ブラジル	ポルトガル語	-
中南米	コロンビア	スペイン語	-
中南米	エルサルバドル	スペイン語	-
中南米	ホンジュラス	スペイン語	-
中南米	ニカラグア	スペイン語	-
中南米	パナマ	スペイン語	-
中南米	パラグアイ	スペイン語	-
中南米	ペルー	スペイン語	-
中南米	ウルグアイ	スペイン語	-



The Rotary Foundation
of Rotary International
One Rotary Center
1560 Sherman Avenue
Evanston, IL 60201-3698 USA
www.rotary.org